

行政視察報告 鈴木 潔他5人

平成29年11月9日から10日にかけて沖縄県糸満市の庁舎建替えについて・沖縄県西原町の新庁舎建設に至った経緯について・沖縄県那覇市の議場の使用について、の視察について順次ご報告申し上げます。

初めに糸満市についてご報告いたします。

I、建設に至る経緯

糸満市の庁舎建設事業計画の背景については、県の南部地域の主要幹線である国道331号線の交通渋滞緩和と同地域の振興開発のために「国道331号バイパス建設事業」が平成2年に国で事業採択され、その道路線上に位置していた旧庁舎が移転を余儀なくされたことによる。

2、建築概要

- ① 敷地面積：13,844㎡(4,187坪)
- ② 延床面積：15,434㎡(4,668坪)
- ③ 建築面積：6,143㎡(1,858坪)
- ④ 構造：鉄筋コンクリート造り 一部PC工法
- ⑤ 駐車場：117台 *身障者用5台(内2台は雨に濡れない箇所に設置)
- ⑥ 工期：平成12年10月23日～平成14年3月31日
新庁舎での業務開始 平成14年5月7日

※ 総事業費 約56億7千300万円

内訳 一般財源 38億4千600万円・内移転補償費22億円国より
地方債 10億9千200万円
NEDO助成金 2億4千300万円・新エネルギー
負担金 4億9千200万円・水道部、土地開発公社

*太陽光発電設備設置費4億5千万円・NEDO助成金含む

しかし太陽光発電の設置について庁内プロジェクトの予算関係により、当時日本製が割高の為予算内のドイツ製を採用したところ、ACアレイ盤改修・太陽光で発電された電気を直流から交流への交換や絶縁機能等を兼ね備えた装置、(パワーコンディショナー)、ACアレイ盤改修(IPM)・インバーター内の部品で直流を交流へ変換し、過電圧等の異常を感知する部品、太陽光パネルの破損のメンテナンス費用として、平成19年から平成28年度までに約3,320万円がかかってしまいました。また、これだけの庁舎を建築しながら会

議室が足りない為大変苦闘をしているとの事でした。

こうしたお話を聞き我が志木市においても、しかるべき処には予算を惜しまず投入することだと痛感しました。市と、庁舎建設プロジェクトチームと、議会とがしっかりと意見交換をすることだと感じた。



糸満市役所

すだれ状に日よけを取り入れそこに太陽光パネルを設置した。

次に、沖縄県西原町の新庁舎建設に至った経緯についてご報告いたします。

旧庁舎は昭和43年の建築から46年を経過し、著しい老朽化による安全と維持管理面や耐震性の問題、事務量の増大による庁舎の分散化、待合スペースの狭隘等により、住民サービスの面で不便をきたし、新庁舎の建設が長年の懸案であった。

昭和61年2月に西原町役場庁舎検討委員会初会合、平成21年5月公共施設ゾーン(字与那城)にまちづくり交付金を活用して複合施設で建設を進めることを決定したとの事です。

建築概要

- ① 用 途 庁舎(庁舎、地域防災センター、町民ホール、保健センター)
- ② 敷地面積 14,303.7 m²
- ③ 建築面積 4,657.5 m²
- ④ 延床面積 8,205.9 m²
- ⑤ 構 造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、(基礎免震)
- ⑥ 駐 車 場 自動車(一般)約 310 台・自動車(公用車)約 40 台
- ⑦ 駐 輪 場 自転車・バイク 約 30 台
- ⑧ 非常用発電機 3 日分 経由 6,000ℓ
- ⑨ 工 期 平成 24 年 9 月～平成 26 年 2 月

※総事業費：約 37 億円(調査・設計・用地。補償費含む)建築費約 28 億円

財源内訳：総事業費 3,719,068 千円(100.00%)

まちづくり交付金 855,249 千円(23.00%)

基 金 700,300 千円(18.83%)

起 債 2,163,000 円(58.16%)

一般財源 519 千円(0.01%)

西原町の庁舎は複合施設としており、庁舎・さわふじ未来ホール・保健センター・地域防災センター等からなり、平日でもホール、健康センタ等利用者が多数来ることにより約 310 台の駐車場では足りない場合が起きた。

そのため新たに駐車場の確保を余儀なくかされたとの事でした。

志木市新庁舎計画では駐車場が一般 100 台ですので、一階に市民ホール(100 名)を設けているので駐車場が大変心配にと思っておりますので、しっかり詰めていただきたく思います。



西原新庁舎



町民交流センター

次に沖縄県那覇市の議場の使用について

- 1、議場の多目的使用について
- 2、議場設備について
- 3、議会部門フロアー(議場含む)見学希望について等を視察いたしました。



旧庁舎議場



新庁舎議場(市章のような円形)



大型スクリーン60×3面合わせ



那覇市では昭和40年9月に旧庁舎が完成し移転する。
平成18年11月に新庁舎建設方針を表明し、平成19年3月に新庁舎建設に関する調査特別委員会を設置し、参考人意見聴取を行った。
琉球大学教育学部教授 島袋 純氏は「1998年に議会が復活したスコットランドでは、議員同士が向き合い出来る配置」・「市民に身近な市民に開かれた・市民が誇れる議会を造ってもらいたい」とのご意見をいただく。
もうお一人の沖縄国際大学産業情報学部教授 富川盛武氏は、市民に開かれた議事堂を建設する為の提言「市民に対しガラス張りでバリアフリーの議会(先進例として、鈴鹿市議会の車イス対応・大型スクリーン)」の導入のご意見

をいただく。

両氏のご意見をふまえ、特別委員会では先進地視察を実施した。

- バリアフリー化(議席、傍聴席の車イス対応)
- 対面式議場(豊田市、鈴鹿市)
- 議場内スクリーン設置(鈴鹿市)

平成19年8月に新庁舎建設に関する要請決議を可決する。

議事堂についての考え方

- ① 議事堂の位置については可能な限り市民になじんだ現行階に位置することが望ましい。
- ② 議場については、現行の大きさや形式を維持しつつ、今後の議会改革に対応できるものとする事と、傍聴席は、市民が入りやすく、議場の様子が分かりやすい配置とすることとした。

平成20年12月に新庁舎基本・実施設計に着手した。

平成21年9月仮庁舎完成、仮移転した。

平成22年6月に新庁舎建設工事に着手した。

平成22年6月に議場円形配置案の提案、平成22年7月に円形配置案に議会が同意した。

平成24年12月に新庁舎完成、本移転した。

平成25年1月に新庁舎供用開始となる。

円形議場配置案の提案は、那覇市の市章を模した円形の配置案とした。

また大型スクリーンは60インチ×3面合わせの大きさを傍聴者にも見やすい大きさを採用した。

志木市においても新庁舎の建設には宮川盛武教授が言われるように、市民に対しガラス張りでバリアフリーの議会、先進例の車イス対応・大型スクリーン等の導入は是非とも必要と感じた。

以上報告いたします。